

「そのうち」

河合 教正

そのうち お金が儲かったら
そのうち 家でも建てたら
そのうち 子どもが手を離れたら
そのうち 仕事が落ち着いたら
そのうち 時間の余裕ができたら
そのうち そのうち
できない理由を繰り返している内 やがて寂しい人生の幕が降り
頭の上に寂しい墓標が建つ 今来た道は帰れない

この詩は私が26年前、京都の本山で飛騨高山からおみえの住職さんからお聞きした詩です。

今や、人生80年を生きることができるのも当たり前、90歳を過ぎてもお元気な方も珍しくない時代となりました。しかし、長寿社会と言われる現代において、70年程前には考えられなかった様々な問題が現れてきました。高齢者だけの家庭がどんどん増えていく。そして夫婦どちらかが先に亡くなると所謂^{いわゆる}独居老人が増えていく。やがて、孤独死を迎え、発見された時にはすでに、死後一ヶ月が過ぎていた…等、現代における孤立化した人間が浮き彫りになっているのです。若い時は、未来は夢と期待に満ちていたと思われても、やがて「老い」を迎えた時、冒頭に申しあげましたこの詩がフツと脳裏をかすめることはないでしょうか。

「今日の一日は二度とやり直しのきかぬ一日である」、先人はこの言葉を残してくださっています。多くの方が自分が明日死ぬとは思っていないので、これはまた明日にしようと後回しにすることがあります。もし、今日一日の命だとなれば、自分にとって一番大切なことを後回しにすることは無いと思います。私にとって一番大切なこと、それは私がこの世に生まれさせていただいた意義、歓びを確かめることではないでしょうか。それを仏法に聞く、つまり聞法というと思います。「仏法には、明日と申す事、あるまじく候。仏法の事は、いそげ、いそげ」と蓮如上人は申されています。